

# 私鉄車両めぐり 第7冊

鉄道ピクトリアル 1966年7月号・臨時増刊 通巻第186号

表紙 干拓地の開拓使……………松尾一郎

## グラフ

秋田中央交通の列車風景……………	3
三井芦別鉄道……………	4
秋田中央交通軌道線……………	5
仙北鉄道……………	6
小名浜臨港鉄道……………	8
流山電鉄モ103……………	10
流山電気鉄道……………	99
有田鉄道……………	101
岡山臨港鉄道……………	103
大分交通耶馬溪・宇佐参宮・国東線……………	104
私鉄車両めぐり<第7分冊>掲載私鉄分布図	

## 記事

①三井芦別鉄道……………	小熊 米雄…11
②秋田中央交通軌道線……………	金沢 二郎…22
秋田中央交通デワ3000形について…	吉川 文夫…28
③仙北鉄道(現宮城バス鉄道管理所)…	亀谷 英輝…29
④小名浜臨港鉄道……………	高井 薫平…40
⑤流山電気鉄道……………	宮沢 元和…52
⑥有田鉄道……………	藤井 信夫…62
有田鉄道ノート……………	青木 栄一…67
⑦岡山臨港鉄道……………	松尾 一郎…70
⑧大分交通国東・宇佐参宮線……………	奈良崎博保 谷口 良忠…79
私鉄研究の現状とその問題点……………	青木 栄一…95

## 「私鉄車両めぐり」<第7分冊>刊行にあたって

前回、私鉄車両めぐり分冊刊行の第6刷に当って、その企画・準備から原稿の促進、受領後の内容の整備などに思いのほか時日と手数を要したことから、前回本欄で「今後このシリーズをつづけてゆきたい」とは申ししたものの、正直なところ第7分冊発行の公算は甚だ低いものであった。

ところが、いざ発行してみると、苦心の甲斐あってか評判は前5分冊に優るとも劣ることはないどころか、むしろいままでにない好評をもって迎えられたことは、返品率の予想外に低かったことでも判断できたことであつた。

第7分冊は、こうした読者のご支援と、編集委員の鞭撻とによって、何の躊躇もなく企画は進められた。しかし、綿密周到な準備のもとに進められた最初の企画が滑らかに運ばなかったことは、再三におよぶ企画変更によってもご推察のとおりである。中でも、多くの読者のご期待を得たであろう「江若鉄道」が、編集部との連絡不徹底から、本分冊型にまともならず、ついに平常号に回ったことは残念であった。

かくして、本分冊の原稿は早きは2月17日、最終は6月3日という広い巾の時日を要して編集部へ届けられたが、総じて言えることは、全筆者中本分冊にとっては半

数に達する新人が参加されたのに、一部編集部で補足したものはあったが、内容は量・質ともに平均化・充足されたものであったことは、ますます本分冊の評価を上げるものとして喜ばしい限りである。

ただ、既刊分冊と比べて特記されるのは、沿革編にかなりの重点がおかれたものが目立ったことである。元より「車両めぐり」をテーマとする本分冊としては批判の余地もあろう。しかし、分冊が進むにしたがって、沿革の多岐・複雑な会社が残存していたことにもなり、それだけ興味が添加されるならば一つの行き方であろう。

本分冊発行を契機として、さらに多くの読者の支援を得れば、残る十数社の知られざる私鉄を一気に終結に持ちこむこともできるのではないかと思っている。

本分冊の内容検討と補筆には青木栄一・中川浩一両氏に、またグラフ編集割付には高松吉太郎氏に、路線図は一部を除き青木栄一氏にお骨折願った。

【表紙】「干拓地の開拓使」 松尾 一郎  
岡山臨港鉄道 キハ1003 岡南泉田(こうなんいずみだ)ー岡南福田間 41.3.13

【3頁】「秋田中央交通の列車風景」 高松吉太郎  
八郎潟にて 36.9.30

【10頁】「馬橋一幸谷間を快走するモハ103」(当時の大きな番号表示に注意) 36.1.6 高橋 文雄